

持続可能なブルーエコノミー

海洋保全と海洋資源の持続可能な利用を通じた経済振興に向けた世界の取組

海洋環境の保全と海洋資源の持続可能な利用を進めながら経済振興を進める取組を国際的には**持続可能な海洋経済**あるいは**持続可能なブルーエコノミー**と称して海外では様々な施策や制度整備が進められています。ブルーエコノミーの推進には、

- (1) 複数の政策目的の実現を目指す**コベネフィット（共便益）手法**
- (2) **トレードオフ（二律背反）の最適化**
- (3) **ステークホルダーや地域間連携**

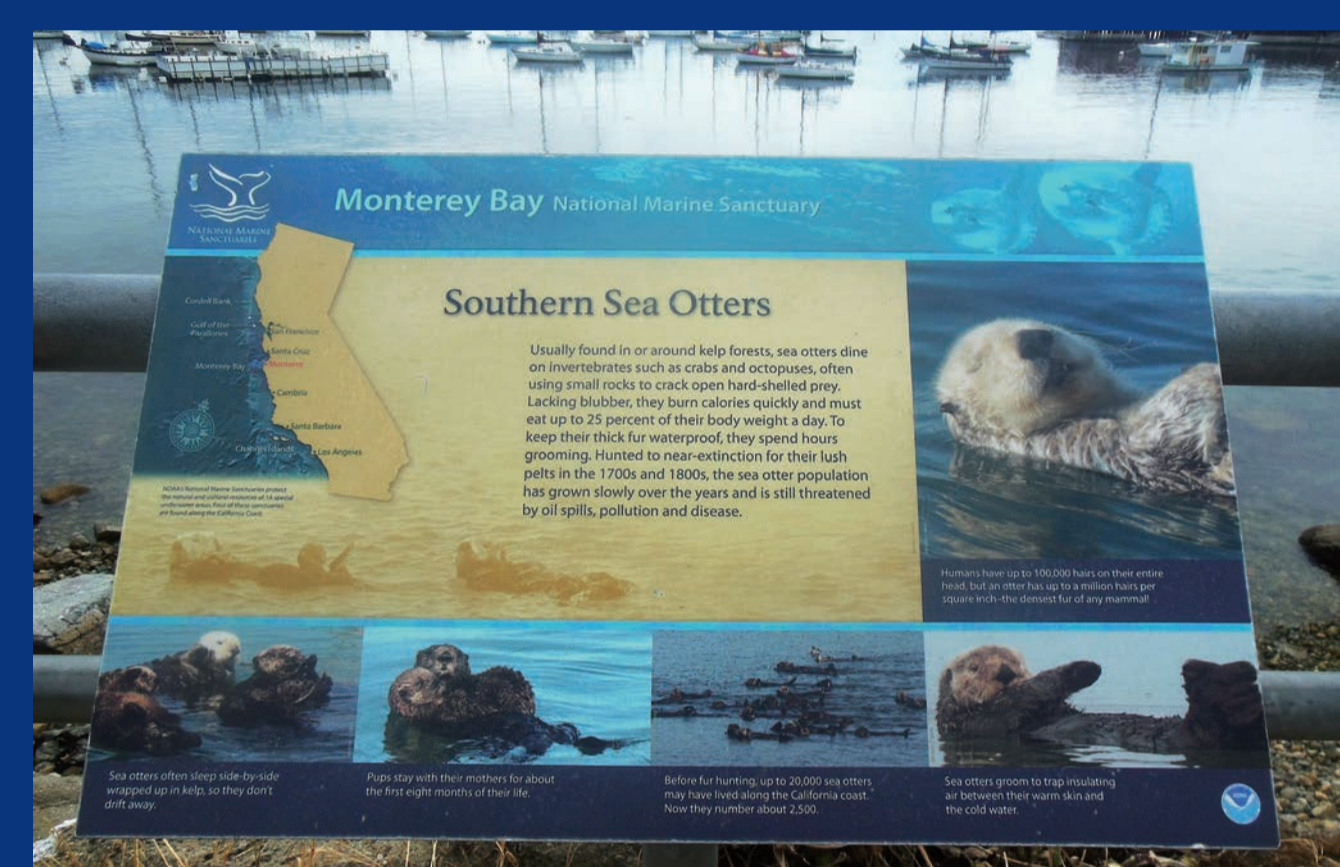
が重要です。持続可能なブルーエコノミー推進に向け“**社会協働・イノベーション・国際連携**”が目指されています。

コベネフィット（共便益）種法 - 複数の政策目的実現に向けた取り組みの例

カルフォルニア州の海洋・沿岸保全と 漁業・養殖業の両立



沿岸・海域での保護区の設定・管理



海洋生物に関する啓発



持続可能な漁業・水産資源の利活用



海藻を利用した貝類の養殖

ハワイ・ハワイ島の海水温度差発電と 深層海洋水の多目的利用



海洋温度差発電施設



深層海洋水を利用した海藻養殖



深層海洋水を利用したアワビ養殖



地元特産アワビを食材として提供

トレードオフ（二律背反）とその最適化の必要性の例

マングローブ保全と汽水域養殖 フィリピン・ロスバニョス沿岸



マングローブ



養殖池

ステークホルダー間での利害調整の課題の例

零細漁業者と中型船商業漁業者 （インドネシア）



零細漁業（アンボン）



中型船商業漁業者（メダン）

イノベーション、社会協働、国際連携の例



廃棄された牡蠣殻を利用した人工魚礁の取組
(メキシコ・ラパで海洋建設がJICAの支援を受け実施)



パラオのシャコガイ養殖場
(JICAがパラオ漁業局の取組を支援)



帆船を利用した漁業
(スリランカ・ネコンペで地域の漁業者が連携)



漁業者がエコツーリズムを実施
(アンティグア・バブーダのバブーダ島で地域の漁業者が連携)



プラスチックゴミを燃料化しガラス細工を制作
(パラオにてコロール州の日本人専門家が支援)